

**釧路湿原自然再生協議会
第22回湿原再生小委員会**

資料 6

広里地区自然再生事業について

令和2年1月17日

環境省釧路自然環境事務所

【 内 容 】

- 1 広里地区自然再生事業の概要
- 2 検討の経緯
- 3 今年度の実施内容



1 広里地区自然再生事業の概要

～ 広里地区は湿原再生手法を検討する場 ～

旧農地区域

問題点

1960年代後半以降、**湿原植生の劣化**

原因

旧雪裡川の分断、農地造成による**水位低下**

周辺環境

対岸：農地（ダイコン畑）

旧雪裡川：タンチョウが利用

取組み

湿原植生の再生手法を検討

～ 周辺環境に影響を与えない手法 ～

ハンノキ林

問題点

1970年代頃
ハンノキ林が急激に拡大

原因

?

※取組み当初は不明

取組み

取り扱いを検討

拡大要因の解明



2 検討の経緯

(1) 旧農地域

調査・検討結果

- ① 湿原植生は地下水位の安定的な上昇と関連
- ② 再生方法「水位を安定的に上昇させる方法」が必要

工法の条件

- 隣接する河川と対岸のダイコン畑に影響を与えない方法が必要
- タンチョウの生息に影響を与えない施工が必要

遮水壁の検討

- 遮水壁設置を検討した結果、効果（水位上昇の範囲）は限定的・不確実
- より深くまでの遮水壁設置は不可能
- 現時点における旧農地域の遮水壁の設置は困難

検討を終了（2018年）

2 検討の経緯

(2) ハンノキ林

調査・検討結果

- ① 将来的には拡大せず、衰退する可能性がある
- ② 生育の抑制には「伐採後の数年間の萌芽切除」が有効である



取扱い方針

- ・ハンノキ林の状況を把握しつつ、問題が認められた場合には伐採等を再検討する
- ・今後10年間、5年に1回(※)のモニタリングを続け経過を観察（第15回湿原再生小委員会で決定）

※2014年
2019年
2024年

検討を終了（2013年）

2 検討の経緯

(3) 年表と今後の予定

旧農地区域

検討項目	事前調査	旧雪裡川 通水・堰上げの検討	地盤掘下げ 試験	遮水壁の検討
年次				
2002年 平成14年	<ul style="list-style-type: none"> 水位シミュレーション GCA解析 明渠埋め戻しの検討 乾燥原因の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 水位シミュレーション 河川環境調査 （魚類・底生生物・植物・水位・水質） 影響予測 	<ul style="list-style-type: none"> 試験区の施工 モニタリング （植生・水位・水質・土壌・地温） 	
2003年 平成15年				<ul style="list-style-type: none"> 検討終了
2004年 平成16年				
2005年 平成17年				
2006年 平成18年			<ul style="list-style-type: none"> 効果検討 	
2007年 平成19年			<ul style="list-style-type: none"> 検討終了 	
2008年 平成20年				
2009年 平成21年				<ul style="list-style-type: none"> 水位シミュレーション 地質調査 有効性検討 シミュレーション 基本設計・現地調査 実施設計 電気探査 地質調査
2010年 平成22年				
2011年 平成23年				<ul style="list-style-type: none"> 検討終了
2012年 平成24年				
2013年 平成25年				
2014年 平成26年				
2015年 平成27年				
2016年 平成28年				
2017年 平成29年				
2018年 平成30年				

ハンノキ林

検討項目	事前調査	ハンノキ 伐採試験	拡大メカニズム 説明調査	方針の検討
年次				
2002年 平成14年	<ul style="list-style-type: none"> GCA解析 航空写真判読 	<ul style="list-style-type: none"> 試験区の施工 モニタリング （植生・水位・水質・土壌・地温・気象） 	<ul style="list-style-type: none"> ハンノキ林立地適地調査 （発芽・実生・植生・年輪・水位・水質・土壌） 	
2003年 平成15年				
2004年 平成16年				
2005年 平成17年				
2006年 平成18年		<ul style="list-style-type: none"> 効果検討 		
2007年 平成19年		<ul style="list-style-type: none"> 検討終了 		
2008年 平成20年			<ul style="list-style-type: none"> 湿原火災の影響調査 模擬燃焼試験 （発芽・実生・植生・光量子・水位・水質・土壌） 	
2009年 平成21年				
2010年 平成22年				
2011年 平成23年				
2012年 平成24年				
2013年 平成25年			<ul style="list-style-type: none"> 解析 	<ul style="list-style-type: none"> 取扱い方針検討
2014年 平成26年			<ul style="list-style-type: none"> 検討終了 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング (5年毎・計3回)
2015年 平成27年				
2016年 平成28年				
2017年 平成29年				
2018年 平成30年				
2019年 令和元年				<ul style="list-style-type: none"> モニタリング
2024年 令和6年				<ul style="list-style-type: none"> モニタリング

3 今年度の実施内容

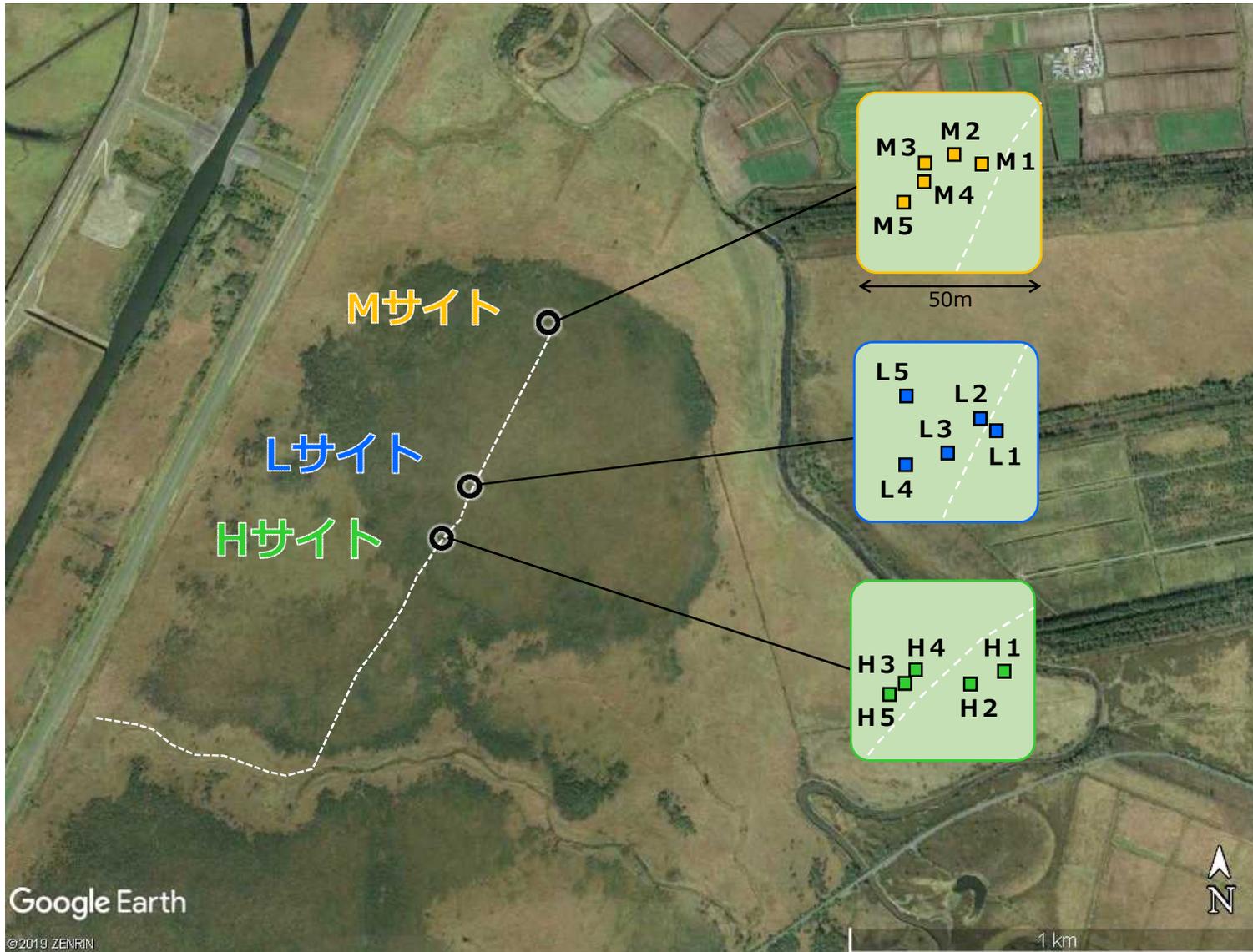
ハンノキ林モニタリング調査

目的 広里地区のハンノキ林の既存調査区において、5年に一度モニタリング調査を行い、群落動向を把握する。

調査方法

- ・既設プロット（低木区（L）・亜高木区（M）・高木区（H））において継続調査
- ・各区5か所の方形区（3m×3m）内に生育するハンノキの枝長・太さ・枝張りを測定
- ・ハンノキは地際で分枝している萌芽枝を独立した竿（stems）とした
- ・地際から30cm以上の長さの竿を調査対象とし、全ての株、竿を識別している
- ・前回調査の結果とも照合しながら、枯死、新規加入を記録
- ・群落構造の今後の推移変化を予測

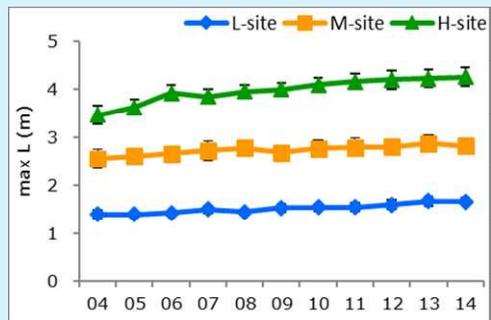
3 今年度の実施内容 ハンノキ林モニタリング調査 サイト位置



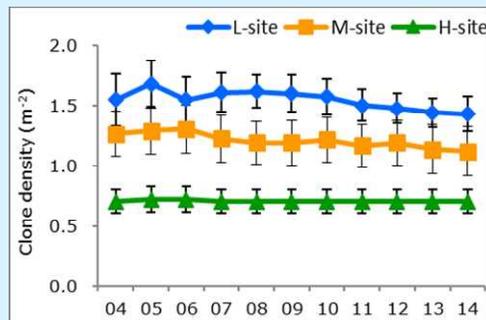
3 今年度の実施内容

ハンノキ林モニタリング調査

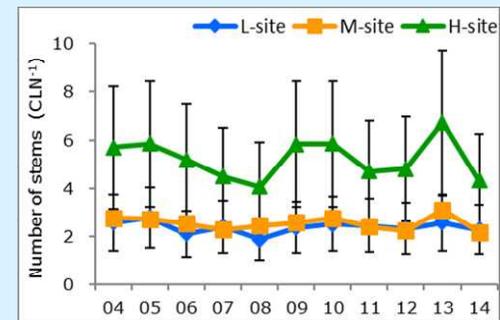
2004年～2014年までの観測結果



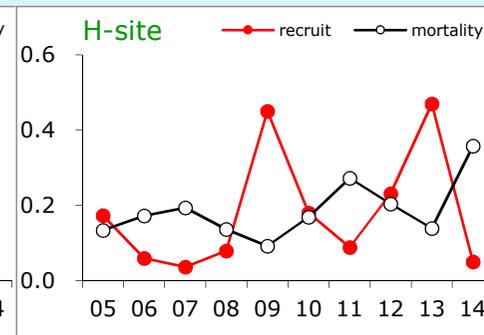
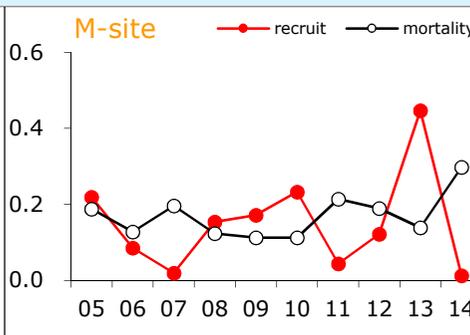
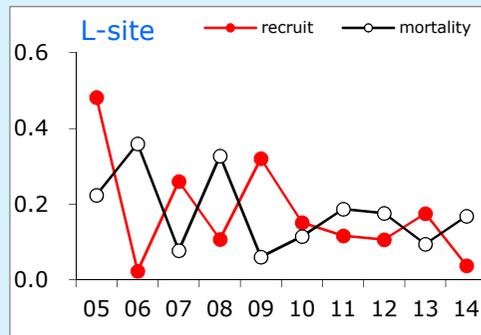
最大竿長



株密度



株あたりの竿数



竿の新規加入率と死亡率